

令和7年第1回 産業医科大学病院医療安全監査委員会 監査事項

日 時 令和7年8月1日（金）14：00～15：20

場 所 産業医科大学病院 本館3階中会議室

監査事項

1. 今年度、多職種で取り組まれている医療安全活動について
2. RRTの活動実績およびその成果、職員へのフィードバック等々、RRSの現状について
3. 適応外・禁忌薬の使用について
 - ①適応外・禁忌薬を使用する場合の院内での報告体制をご教示ください。
 - ②昨年度、適応外・禁忌薬の使用報告は何件ありましたでしょうか。

令和 7 年 8 月 27 日

産業医科大学病院医療安全監査委員会

委員長 秋吉浩三郎



○令和 7 年度 第 1 回産業医科大学病院医療安全監査委員会講評

改正医療法施行規則により医療安全管理体制整備の確認のために、令和 7 年 8 月 1 日に第 1 回産業医科大学病院医療安全監査委員会を開催しました。

監査は事前に通知した監査事項に沿って行いました。監査結果を以下に講評します。

監査事項

1. 今年度、多職種で取り組まれている医療安全活動について
(講評)

転倒予防ワーキング、RRS 検討ワーキング、インフォームドコンセント (IC) 取得時の運用に関するワーキング、身体拘束最小化チームなど、多職種が連携し、幅広い医療安全活動に取り組まれていることを確認しました。特に IC 監査においては、診療情報管理士と医療の質・安全管理部が協働し、監査結果を現場へのフィードバックを実施するとともに、医療の質・安全管理委員会で報告する体制が構築されており、IC の質改善に精力的に取り組まれています。

また、院内の医療安全遵守状況の確認のための院内巡視が、各部署年 1 回程度の頻度で定期的に行われていることを確認しました。今後は、巡視回数の増加を通じて、医療安全に関する意識のさらなる向上や安全活動の推進が期待されます。

2. RRT の活動実績およびその成果、職員へのフィードバック等々、RRS の現状について
(講評)

RRT は編成されていませんが、急変兆候や気がかりな患者への急変予防体制が適切に整備されていることを確認しました。また、RRS 検討ワーキンググループ会議を開催し、RRS 要請患者事例を検討するなど、定期的に活動評価が行われている体制は素晴らしいと評価します。RRS 検討ワーキンググループ会議で事例検討した結果を職員へ発信することで、今後、貴院における RRS 活動の更なる発展が期待されます。

3. 適応外・禁忌薬の使用について

①適応外・禁忌薬を使用する場合の院内での報告体制をご教示ください。

②昨年度、適応外・禁忌薬の使用報告は何件だったでしょうか。

(講評)

適応外・禁忌薬を使用する際には、担当医または使用を確認した薬剤師から「未承認・適応外・禁忌医薬品使用申請書」が提出されています。薬剤部の担当者および医薬品安全管理責任者が医薬品のリスク分類表に基づいて申請内容の評価を行い、必要に応じて病院倫理委員会での審議を実施する体制が整備されていることを確認しました。更に、投与期間中、年1回の経過報告書の提出と、投与終了時の申請書に当該薬剤の使用による副作用の有無とその対応について記載をすることが義務付けられており、適切なフォロー体制も整備されています。また、電子カルテ上に適応外・禁忌薬専用のテンプレートを作成することで、適応外使用への意識を高める工夫がとられています。

運用開始後、申請件数が増加している点は高く評価できます。一方、昨年度の報告件数は34件と貴院の規模からすると少なく、把握できていない適応外・禁忌薬の使用があるのではないかと推察します。今後も、適応外・禁忌薬の適正使用環境整備の継続を期待します。

以 上